

令和7年度 定時評議員会 議事録

日時 令和7年5月10日(土)13時00分

場所:北海きたえーる研修室

出席者: 生島典明、黒田謙二、渋谷研一、田中昌幸、
印藤智一、丸山道博、齊藤幸治、川崎尚子、
家近昭彦、坂本雅春、浅野泰弘、石崎 賢、
笹森恭之、多田吉宏、佐見洋治、太刀川建一、
千葉三郎、二本柳康仁、高田祐貴、山内孝夫、
中川裕行、阿部 豊、大西能正

(監事) 須田正毅、高橋克徳、

(事務局) 嵯峨亘道、倉豊彦 (議事録)

1. 開会

10名中7名参加で定則数を満たしていることが報告。

2. 会長あいさつ

各種大会が各主管協会の協力のもと実施された。SV・Vリーグも道内各地で開催された。次のシーズンも活躍を期待している。引き続き支援を行いたい。

今年度より本格的に一般社団法人になる節目の年。旧体制では最後の会議。新年度でも引き続きご協力を賜りたい。

3. 議事録署名人

二本柳議長その他、大西評議委員(実業団)、高田評議委員(深川協会)が指名。

4. 協議事項

(1) 令和6年度 事業報告及び決算書類等の承認について

① 事業報告

総務委員会より

「各種会議の開催」では評議委員会や理事会を開催。臨時委員会を7月と3月の2回、SV・Vリーグ事業運営担当会議を1回開催した。「健全な財政運営」では、年度監査、中間監査を資料記載の通り実施。「体罰、暴力、暴言などの根絶」ではJVAの暴力撤廃アクションに基づく啓発活動を随時行っている。「規約、規定の改廃」については、定款及び新規定の制定に伴い、現団体の規約及び旧規定の廃止を行っている。「その他」として、チーム登録一覧を2ページに記載。

競技委員会より

9人制は参加者が少ないが、今年度も継続して行う。高校新人戦について「武ダGEAD株式会社杯」という名前行われた。4つの全国大会が行われた。

審判委員会より

S1 レフェリーとして、旭川の大塚さんがSVリーグで活躍中。審判講習会について、参加人数が減っている。今後、対応を協議していく。先日行われたSVリーグのファイナルで、男子を村中さん

女子を明井さんが1stレフェリーを務めた。また、Vリーグ女子のファイナルを札幌の尾上セナさんが担当。

強化委員会より

各種会議2回実施。「中学生強化」は8月の初心者合宿から、JOC大会まで進めた。「高校生強化」は国スポ少年の選考会を6月24日から始まり、合宿等含めて予定通り終了。

指導普及委員会より

各種開会事業について開催地区協会をはじめ各地区協会の協力により滞りなく終了。「指導者養成講習会」について、北海道公認コーチの認定講習会が21協会で行うことができた。また「コーチ1」の資格取得講習会について、今年度89名受講。全て資格認定されている。

②決算報告

○一般会計

繰越金は、令和5年度決算を踏まえ、SV・Vリーグ受託収入を売掛金として令和6年度に繰り越すための補正予算措置を行った。交付金は、高校大会としてUHBから入金を受けている。繰入金はなく、基本金は各地区会や加盟団体から登録チーム数に基づき入金があり、賦課金及び参加料、SV・Vリーグ業務受託料はデンソーエアリービーズ分のほか、登録料、配付金は資料記載の通り入金となっている。雑収入は、預金利息のほか、JVAからの法人と法人格取得に伴う補助金、武ダGEAD株式会社、名鉄観光株式会社からの協賛金等が入金となり、売掛金はヴォレアス北海道、北海道イエロースターズ、アルテミス北海道のホームゲーム開催に伴う業務受託料を計上した上で決算をし、収入決算額合計2835万2857円となる。支出の部の納入金は、道スポーツ協会から、事業費は、各委員会の決算報告を反映し、記載の通りとなっている。国民スポーツ大会予選会費、大会交付金は、天皇杯皇后杯北海道ラウンド事業費、SV・Vリーグ開催地交付金を支出している。大会参加料、大会支援金、総務委員会費、会議費、旅費、助成費については記載の通り。委託料については、会計税務処理委託料、行政書士委託料のほか、支出決算額合計、決算額合計は1975万4564円となる。この結果、収支差引859万8293円を令和7年度に繰り越す決算となる。今期決算においては、3月開催の第4回理事会で新年度予算案の承認を得た国スポ・成年ユニフォーム等の要望への対応等、安定運営のめどが立つまでの間は一定程度の財源確保が必要になることから、次年度への財源の繰り越しをお願いする。

○特別会計

財政調整基金の収入は、収支差し引き900万399円を次年度に繰り越しします。育成基金の収入は、収入合計が2724万8590円となり、支出では、国民スポーツ大会少年強化対策事業として160万円を支出し、収支差し引き2564万8590円で決算をしている。

(生島会長) 収入予定はいつか？

(齊藤総務委員長) 令和7年3月31日までに請求書は送っていて、入金を待っている。今日現在、一部のチームを除いて入金になっている。

(生島会長) 強化育成基金の繰入金の理由は？

(齊藤総務委員長) 審判委員会と指導普及委員会からの事業費残金を繰入金として整理したもの「法人化」を機に、会計のより明確化に伴って、道協会の収入として見える形にしたことによるもの。

③監査報告

令和7年8月12日、北海道立総合体育センターにおいて、須田監事と高橋監事2名で監査を実施。

各会計ともに正確かつ適正に処理されていることを報告する。

→異議なしで、本件については原案通り承認された。

(2)役員選考委員会(会長・副会長・理事・監事候補者)について

会長、副会長の選考は、定款第38条に基づき、新法人への円滑移行と安定運営を踏まえ、現体制の維持が必要との考えのもと、会長に生島氏、副会長に黒田氏、渋谷氏、田中氏の3名が候補者に決定された。理事、監事の選考にあたっては、定款第21条及び22条に基づき、新法人への円滑な移行と安定運営を考慮しつつ、本部制導入によるガバナンス強化、新法人による収益事業の拡大や適正な会計処理等に対応するため、理事に印藤氏、丸山氏、齊藤氏、川崎氏、家近氏、坂本氏、村中氏、石崎氏、上総氏、太刀川氏、笹森氏、奥山氏、平野氏の13名の会長指名理事と、監事に高橋氏、須田氏の2名が選考され、候補者として決定がなされた。

→原案の通り決定。

(3)その他

特別会計の「強化育成基金」の資料を修正。

5. 閉会

議事録署名人

議長 二本柳 康 仁

議事録署名人

大内 能 正

議事録署名人

高田 祐 貴